

SPAC出張劇場

# にっぽん・のすたるぢや

きしだくにお ひ ごろ これめいゆうかな  
—岸田國士傑作選— 『灯ともし頃』 『是名優哉』

岸田國士は生涯に渡って数多くの戯曲・小説を書き、なかでも短編戯曲に傑作が多く、現在でも上演され続けています。

今回のSPAC出張劇場では、その中から珠玉の2作品『灯ともし頃』と『是名優哉』をお届けします。

大正時代の家族そして小さな兄弟の一風景を、詩的に色鮮やかに切り取った『灯ともし頃』。夫の出航を見送る妻とその妻を見守る男、ホテルで交わされる男女の会話劇があらぬ方向に展開していく『是名優哉』。味わいの異なる2作品をぜひお楽しみください。

作：岸田國士

演出：大岡 淳 (SPAC)

出演：石井萌水、大道無門優也、  
ながいさやこ、仲村悠希 (以上 SPAC)

演奏：原 大介

製作：SPAC—静岡県舞台芸術センター

2019年

12月17日 (火)

(特別整理期間中)

19時開演 (18時30分開場)

(上演時間は50分を予定)

入場無料◆お申し込み不要◆80席

寒さが気になる方はひざ掛けなどをお持ちください。

会場：御前崎市立図書館アスパル

御前崎市池新田5560

お問合せ ☎0537-86-8181



11月・12月の休館日

毎週月曜日、11月23日(土)、11月24日(日)

12月2日(月)~12月19日(木) ※特別整理期間

●裏面へ続きます

## 作者紹介:岸田國士(きしだ くにお) (文学座WEBサイトより)

劇作家、演出家、小説家。1890年11月2日、東京・四谷に陸軍士官の長男として生まれる。陸軍士官学校を経て少尉として任官するも、文学への夢断ちがたく28歳にして東京帝大仏文科に入学。1919年に渡仏、ジャック・コポー主宰のヴィユ・コロンビエ座にて演劇を勉強。1924年「演劇新潮」に戯曲『古い玩具』『チロルの秋』を発表して注目を浴びる。その後も、戯曲・小説・翻訳・評論など幅広く活躍。

演劇の指導者としては文学座創立以前から新劇の育成に多大な貢献をしている。特に戯曲作家育成に力を注ぎ、第一次「悲劇喜劇」、「劇作」等の演劇雑誌を主宰。田中千禾夫、小山祐士、森本薫など多くの戯曲作家を紹介・輩出した。その遺志は、演劇界の芥川賞とも言われる「岸田國士戯曲賞」として、今なお生き続けている。

戦後は文壇と劇壇を結ぶ文学立体化運動を提唱し、小説家による戯曲執筆を勧めた。

1954年3月4日、自身が演出する文学座公演『どん底』の舞台稽古中に倒れ、翌日永眠。

長女は童話作家の故岸田衿子、次女は女優の故岸田今日子。

## 演出家紹介 — 大岡 淳 —

演出家・劇作家・批評家。1970年兵庫県生まれ。早稲田大学第一文学部哲学科哲学専修卒業。2006年から現在まで、SPAC文芸部スタッフを務める。「日本軽佻派」を自称し、愉快で知的で挑発的なエンタテインメントを創り続けている。SPACにおける演出作品に、上杉清文+内山豊三郎=作『此処が彼方か、はたまた何処か?』、大岡淳=作『王国、空を飛ぶ! ~アリストパネスの「鳥」~』など多数。編著に『21世紀にマダム・エドワルダ』(光文社)、訳書にベルトルト・ブレヒト著『三文オペラ』(共和国)がある。

静岡県舞台芸術センター (SPAC) は、東静岡のグランシップにある静岡芸術劇場と日本平にある舞台芸術公園内の専用の劇場や稽古場を拠点として、俳優、舞台技術・制作スタッフが活動を行う静岡県立の劇団です。多彩なラインナップからなる舞台芸術作品の創造・上演とともに、世界中から作品が集まる「ふじのくにせかい演劇祭」の開催、中学生高校生を劇場に招待する中高生鑑賞事業「SPAC e SHIP げきとも」、人材育成事業、海外の演劇祭での公演、など様々な活動に取り組んでいます。また、劇場を飛び出して、地域の身近な場所での公演やワークショップなども行っております。

SPACの活動については、WEBサイト<<https://spac.or.jp>> をご覧ください。

SPAC 静岡県舞台芸術センター

検索

SPAC  
SHIZUOKA PERFORMING ARTS CENTER

芸術総監督 宮成 聡

スパック = 静岡県舞台芸術センター